

町制100周年を 「オール葉山」で盛り上げる

大正14(1925)年1月1日、町制施行により葉山村は葉山町となりました。そして令和7(2025)年、町制施行100周年を迎えます。この節目を記念して、町はこれまでの歴史と文化を振り返り、次世代へと引き継ぐための様々な記念事業を実施しています。実施にあたっては、町や議会だけでなく、町民・事業者・団体など様々な主体が垣根を越えて力を合わせ、多彩な記念事業を展開していく「オール葉山」で節目を祝うことを目指します。

まず、100周年を広くPRするため、記念のキャッチフレーズとロゴマークを公募しました。最優秀賞に選ばれたキャッチフレーズは「100年後も、自然と人を想う町、葉山」。作者は当時中学1年生で、「葉山町民は誰もが各々の方法で自然を愛し、人を慈しんでいる。100年後もそんな町でいられるように、今、そしてこれから何ができるのかを考えていきたい」という思いが込められています。ロゴマークは町にゆかりのある人から公募し、63作品が集まりました。一般投票の結果選ばれたのは、町在住のデザイナーの作品。「ヨット発祥の地なので0(ゼロ)の真ん中にヨットのシルエットを配置し、実際の町の風景写真からスポットで色をとった」という言葉のとおり、葉山らしいオリジナルなロゴマークとなっています。

また、「オール葉山」での記念事業を展開するため、町民等主導型協働事業という制度を新たに設け、町民などが自ら行う記念事業を支援しています。その第1弾となった「夏みかん収穫祭」では、町にゆかりのある「夏みかん」を使ったメニュー・商品が販売され、2,000人以上の来客がありました。令和6年9月現在で30以上の事業が承認されており、町民が主体的に関わって共に100周年を祝うことで、町の未来がさらに豊かになることが期待されます。

さらに、町が主催する記念事業では、NHK横浜放送局とのコラボレーションでEテレ「ニャンちゅう!宇宙!放送チュー!」の公開収録を行ったり、劇団東少のミュージカル「白雪姫」を開催したりと、子どもから高齢者まで多くの参加を促しています。その他にも、葉山

生まれのアオウミウシのキャラクター「Myusy(ミューシー)」に、町制100周年を広く周知するための「葉山町制100周年PR大使」を委嘱しました。町主催行事のほか、町民等主導型協働事業を中心に、民間で行う町内のイベントに20回以上出演し、町制100周年を広くPRしています。今後も記念式典や新春の集いの開催が予定されており、さらなる機運醸成が図られます。

100周年記念事業を通じて、葉山町の魅力がさらに広がり、より多くの人々に愛される町となることを期待しています。



町HP100周年記念事業

葉山町制100周年記念のキャッチフレーズとロゴマーク
—それぞれの最優秀作品と受賞者—

夏みかん収穫祭にて(Myusyと子どもたち)